

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日：10月6日(月)

会場：君田生涯学習センター

参加者数：46人

◎テーマ①：小・中学校再配置後のまちづくり

【趣旨説明(君田自治区連合会)】

三次、布野、作木、河内、君田の学区の人口が約8,200人である。4年後を見据えた新たなまちづくりを推進していきたい。

参加者の発言	市の発言	備考
少子化の問題から、学校再配置の話が出ている。少子化は三次市に限らず日本全体の課題である。少子化に歯止めをかけるという課題に対して、学校を再配置することがどのようにつながるのか。学校を無くすことが、子育て支援や少子化対策につながる論理を聞きたい。	学校は教育施設であり、社会的に自立する必要な力を身につけていく場である。学びの環境は市全体で考えており、すべての地域の子どもが、学びたいことや挑戦したいことができる学校を整備していく。学校の存在により、子どもの数が増えてきたという状況にはなっておらず、人口が縮小していく経過をたどっている。この将来を見据えて、持続的に関わっていくことのできる学校教育の環境を整えていく。様々な形で、いろいろな人たちと関わっていく中で、地域の魅力を学校教育の中でも学び、郷土愛を育んでいく。いろいろな声を聞きながら、教育のあり方や学びの場を、地域と一緒に三次市全体で取り組んでいく。	
憲法では義務教育が保障されているが、再配置されることで、君田地区の子どもの教育環境が破壊されるのではないかと懸念している。	義務教育は、教育水準の維持、教育機会の均等、無償性の3要件で成立している。社会状況が変わっていく中で、どの地域に住んでいても、一定程度の学校教育の水準を確保することが憲法の理念を維持することにつながる。	
君田地区だけではなく、市全体の人口や子どもは減っている。子どもが三次市内の学校へ行くと、親も一緒に出ていく可能性があり、君田地区が高齢者だけになる恐れがある。子どもが少ない地域でも、タブレットなどのデジタルの活用などにより、教育が維持できる。教育に携わっている人や地域の人が意見を出し合い、地域を育て、新たな地域の発展が生まれる。児童が地元で育つ地域づくりをしてほしい。	—	
君田中学校の土地や建物はどうなるのか、意見を聞く機会を設けてくれるのか。	君田中学校の土地や建物の活用について、住民自治組織からも提案をいただいている。地域の皆さんと意見を出し合う機会を設け、地域の活性化につながるよう、一緒に考えていく。	
君田地区には、発電所が3つある。電力というインフラを持っているが、君田地区では使用されず、他の地域に供給されている。電力も水もガスも食料も、三次市全体で補完し合いインフラを自立させる構想はどうか。	—	
学校の建物がなくなるのは、地域として寂しい。学校の再利用として、三次で課題を抱える子どもたちのために残すよう検討してほしい。	学びの多様化学校などで跡地の活用を検討してほしいと要望をいただいている。建物には条例が残っているため、手順を踏む必要がある。学びの多様化学校や小規模特認校の配置について、三次市全体で計画中であり、具体的な内容をお示しできる段階になれば、相談や情報提供をしていく。	

# 令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月6日(月)

会 場:君田生涯学習センター

参加者数:46人

## ◎テーマ②: 安心して暮らせる君田町をめざして

【趣旨説明(君田自治区連合会)】

平成30年に君田町では包括ケア会議を設け、人口が減少しても、誰もが助け合いながら、安全・安心なまちづくりをめざしている。

参加者の発言	市の発言	備考
高齢者のみの世帯も増えており、住まいの管理や冷暖房、通院、買物など、個々で暮らすことは大変である。便利な地域に集合住宅をつくり生活をしていくのほどうか。いろいろな面のサービスやインフラの管理が楽になり、人がつながり、仲間と助け合いながら暮らせるような地域をつくってほしい。	集合住宅については一つの手手段であり、参考にさせていただく。障害者や認知症、独居高齢者などが、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまちづくりは、福祉の大きなテーマの一つである。今後さらに高齢化が進み、高齢者の皆さんを支える人も少なくなる中で、どのようなサービスができるのか、国の制度も見極めながら、福祉の充実につなげることが重要である。	
昔と今では子育て環境が大きく変わっており、若い人が子育てをするにはかなり負担となっている。他の自治体では、おむつやミルクに対する支援がある。少子化を食い止めるために、子育てをしやすい支援策等を考えてもらいたい。	これまでも三次市では子育て支援策をしてきたが、少子化へ歯止めがかかっていない。結婚する方が減っていることも一つの要因である。他の自治体も子育て支援を充実させており、過当競争になっている。国がある程度の負担をし、今後を見据えた、日本の人口減少・少子高齢化の根本的な構造改善をしていく時期にある。	
藤兼地区の県道三次高野線は、道路が狭く大型車の通行が困難である。高齢者ドライバーや中学生の自転車通学も危ないため、インフラ整備をしてほしい。藤兼地区で歩道が左右入れ替わっている箇所は、信号機や横断歩道をつけて、安全を確保してほしい。	県に要望していく。国土強靱計画に基づき、老朽化した水道管や道路などのインフラ整備を県と連携し進めていく。地域の要望があれば、優先順位や課題を話し合っ、地元市議や住民自治組織などに相談し、情報を共有してほしい。	

## 令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月6日(月)

会場:君田生涯学習センター

参加者数:46人

### ◎テーマ③:農業の担い手対策

【趣旨説明(君田自治区連合会)】

農業の担い手が極端に減少する中で、少ない担い手で農用地の整備をしていくために、皆さんと意見交換がしたい。

参加者の発言	市の発言	備考
夏の草刈りが大変であり、高齢者はより大変である。農地の整備を考えてほしい。	・草刈りについて、スマート農業を推進している。大型農家においては、ラジコン草刈機の導入支援も新たに設けている。活用には、条件があるので相談してほしい。 ・農地の整備について、7月に君田地区でも圃場整備事業等の説明会をしているが、畦畔整備や区画整備などの、圃場整備事業の活用等を検討してほしい。活用について、農政課へ相談していただきたい。	